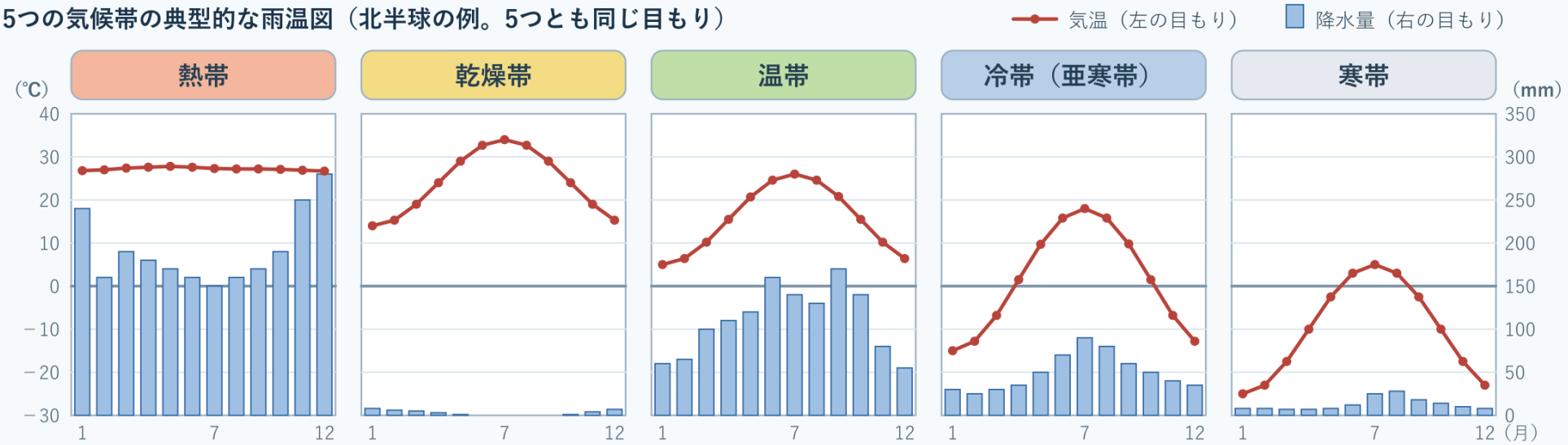
雨温図の形で見分ける世界の気候帯

雨温図のどこを見れば、その土地の気候帯がわかるか

5つの気候帯の典型的な雨温図（北半球の例。5つとも同じ目もり）



熱帯：1年中、気温が高い　降水量も多い

乾燥帯：降水量の棒がほとんどない

温帯：夏と冬の差があり、冬もそれほど寒くない

冷帯（亜寒帯）：冬は0℃を大きく下回り、夏は気温が上がる

寒帯：1年中寒く、夏も気温が低い

見分ける手順（いちばん暑い月・寒い月で見る）

① いちばん暑い月の気温

夏でも気温が低い？
（目安：10℃未満）

→ はい：**寒帯**

いいえ → ②へ

② 降水量の棒

1年を通して
ほとんどない？

→ はい：**乾燥帯**

いいえ → ③へ

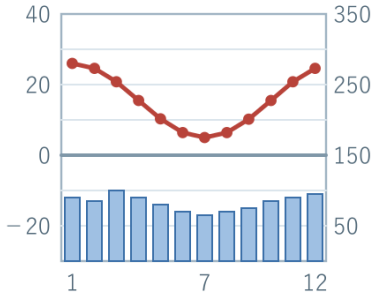
③ いちばん寒い月の気温

高い（目安：18℃以上） → **熱帯**

0℃を大きく下回る（目安：−3℃未満） → **冷帯**

その間 → **温帯**

南半球の例（温帯・模式）



暑い月が1月ごろ、寒い月が7月ごろ。北半球と季節が逆になる。

手順は、いちばん暑い月・寒い月で見るので、そのまま使える。

※ 雨温図は典型の形を示す模式で、実測値ではない。（　）の目安の数はケッペンの気候区分による境目で、発展の内容。